

令和8年度名取市長期総合計画・地方創生総合戦略推進委員会 議事録

1 日 時 令和8年7月23日（木）10：00～11：35

2 場 所 名取市役所議会棟3階 第1・2委員会室

3 出席者 （委 員）◎赤坂委員長、○齋藤副委員長、洞口（祐）委員、佐々木委員、菅原委員、奈良委員、能瀬委員、相澤委員、武井委員、我妻委員、管野委員、洞口（の）委員、佐藤委員
（欠席者：伊師委員）

（事務局）佐藤企画部長

政策企画課

針生課長、菅原係長、佐藤主事、菊地主事、門脇主事

なとりの魅力創生課

阿部課長補佐兼係長、百井主査

デジタル政策課

佐々木係長

商工観光課

工藤係長

4 傍聴者 0名

5 内 容

○開会に先立ち、事務局より新規就任委員の紹介を行った。委嘱状は机上交付とした。

（1）開 会（司会：菅原係長）

（2）あいさつ（赤坂委員長）

○会議の公開および会議録について委員名記載の要点筆記とする旨承認された。

（3）報 告（進行：赤坂委員長）

①名取市第六次長期総合計画の進捗状況について

【資料1】～【資料2】を用いて事務局より説明した。

・【資料1】名取市第六次長期総合計画の進捗状況について

・【資料2】名取市第六次長期総合計画の成果指標ごとの進捗状況について

【質疑応答等】

(相澤委員)

資料 2 No.13 「消費者学習講座の受講者（人）」について、進捗状況及び今後の取組方針の欄に「社会福祉協議会の総会など」と記載があるが、社会福祉協議会の総会はない。令和 6 年度は名取市民生委員児童委員協議会の総会の際に消費者学習講座を実施したようである。「福祉団体の総会」などに訂正いただきたい。

また、資料 2 No.28 「通いの場、高齢者ふれあいサロンあがらいん、高齢者生きがいづくり支援事業への参加者数（人）」について、参加者の男女比を教えてください。

(事務局)

資料 2 No.13 「消費者学習講座の受講者（人）」については、訂正する。

資料 2 No.28 「通いの場、高齢者ふれあいサロンあがらいん、高齢者生きがいづくり支援事業への参加者数（人）」について、参加者の男女比を詳細には捉えていないが、男性が 2～3 割と少ない印象である。

(相澤委員)

一般的にも男性の参加者が少ないようだ。理由として、男性は地域活動になじみがないことが挙げられている。スポーツ、将棋、囲碁、健康麻雀など男性の趣味を活かせる活動を取り入れることで男性の参加者増加、ひいては全体の参加者増加に繋がると思うので、そういった働きかけも行っていたきたい。

(事務局)

貴重な意見として担当課と共有し、できるだけ多くの方に参加いただけるような体制の構築に努めたい。

(我妻委員)

令和 6 年度、令和 7 年度は調査を実施していない項目がいくつかあるが、それを現状値以上として集計するのは誤解を招くのではないか。また、今後アンケートを実施する予定はあるのか。

(事務局)

令和 6 年度、令和 7 年度に調査を実施していない項目のほとんどは、計画策定時に調査を行っている。毎年同様の調査を行うことは難しいため、計画策定時、中間見直し時、次期計画策定時に調査を実施することとしている。

調査を実施していないのに現状値以上という表現はどうか、というご指摘については、次回以降、各分野で個別に実施しているアンケート調査の実績を確認することを含め、適

切な表現に修正したい。

(赤坂委員長)

今回はいつ頃調査するか、具体的な時期は決めているか。

(事務局)

令和 11 年度末～令和 12 年度当初にかけて調査を行う予定である。

(洞口（祐）委員)

資料 2 No.43「新規の起業件数（件）【累計】」について、創業したい方は非常に多いが、空きテナントの供給が不足している。商店街にあるシャッターを下ろしている店舗をテナントとして使用できるよう、貸主にも補助金を交付するなど働きかけを行うと当該指標の実績も向上するのではないか。

また、**資料 2 No.93**「こどもファンド事業応募者数（件）」について、名取まちづくり株式会社も一緒に取り組ませていただければと考えている。ぜひお声がけいただきたい。

(事務局)

資料 2 No.43「新規の起業件数（件）【累計】」について、資料に記載の数字は、市の予算を通して起業に繋がった件数のため、起業している方々、起業を検討している方々は、実際はもう少し存在すると考えている。本指標の数字のみに囚われず、商工会などと意見交換をしながら取組を進めることが大事だと考えている。

例えば、増田地区の商店街は、住居と店舗が一体となっている店舗が多く、新たな創業者が使いづらいことは以前から課題とは捉えている。しかし、市が店舗改修費まで補助金を交付するとなると大きな予算も必要となるため、この場で軽々にご提案のとおり取り組むとは申し上げづらい部分もある。名取まちづくり株式会社や事業担当課と課題を共有し、一緒に考えていきたい。

また、こどもファンド事業において、こども達が「まちづくりのために何かしたい」という際に、名取まちづくり株式会社と連携して事業を進めていければ効果的だと思うので、事業担当課と共有し、うまくコミュニケーションを図っていけるように取り組んでいきたい。

(能瀬委員)

資料 2 No.93「こどもファンド事業応募者数（件）」について、どのような活動内容の応募があったのか。

(事務局)

イベントの開催や市内の公共空間に色を加える事業、地域で気づきを得られる取組を地域と一体になって進める事業など様々である。今年で8年目となるが、小さなこどもから高校生まで広く取り組んでいただいている。

(佐々木委員)

資料2 No.2「震災復興伝承館への来場者数(人)」について、3月に行った絵画企画展は、来館者がPTSDを引き起こす可能性があるとして、実際に展示に至るまで市との交渉に時間を要した。来館者に配慮することは大切だが、伝承館がある意味を市及び名取市観光物産協会が考えを統一し、企画・運営できると良いと考えている。震災復興伝承館は、現在、防災教育の研修先として目を向けられているので、震災によりどういったことが起きて、どうすれば復興に向かえるのか、どうすれば防災に繋がるのか、具体を示せるような資料展示が今後必要になると思う。PTSDについても考えを統一できないと大幅なリニューアルは難しい。来場者を増やすためにも、今後も市と検討を重ねていきたい。

(事務局)

震災復興伝承館は、建物が堤防上にあり、施設の拡張などの抜本的な見直しは難しいが、何のために施設があるのかを認識し、できるだけ多くの方に閉上で起きたことを知ってもらい、今後に繋げていけるような取組を進めていきたいと考えている。指定管理者である名取市観光物産協会と一体となった取組が必要であり、今後も引き続きよろしくお願いしたい。

②名取市第六次長期総合計画 地方創生総合戦略版の進捗状況について

【資料3】～【資料4】を用いて事務局より説明した。

- ・【資料3】名取市第六次長期総合計画 地方創生総合戦略版の進捗状況について
- ・【資料4】名取市第六次長期総合計画 地方創生総合戦略版の重要業績評価指標ごとの進捗状況について

【質疑応答等】

(洞口委員)

資料4 No.10「産学官連携による新商品の開発件数(件)【累計】」について、特定の業者が何回も応募しているため、募集の間口をより広げたほうが良い。

(事務局)

担当課でもPRは行っていると思うが、新商品の開発に取り組んでいただける市内の

事業者が広がりには欠けているのは課題と捉えている。新たに産学官連携に取り組んでいただけの事業者の発掘に取り組んでいきたい。

(齋藤副委員長)

資料 4 No.44「放課後児童クラブ登録人数(人)」について、令和6年度と比較して減少しているが、資料4 No.43「中高生が保育所や児童センターなどにおいて、子どもとふれあう機会(人)」は増加している。名取市内の児童館・児童クラブは、放課後児童クラブに登録していなくても利用できるため、中学生が来館する壁は低い。また、児童館・児童クラブの利用においては、「一時利用」として、日額500円で放課後児童クラブに登録しなくても登録者と同じように利用できるシステムもある。こども達の声、育ちを考えると、必ずしも資料 4 No.44「放課後児童クラブ登録人数(人)」の目標値達成がマストではなく、資料 4 No.41「児童センターの施設利用者数(人)」なども鑑みていく必要があると思う。利用者アンケートを実施する際には、こども達の声も取り入れていただくと良いと思う。

(事務局)

委員のおっしゃるとおり、本市の児童センターは中学生も含め、放課後児童クラブ登録の有無にかかわらず多くのこども達が利用できることが特色となっており、放課後児童クラブ登録人数だけでなく、全体の利用状況に意を用いて参りたい。また、こども達の声も確認し、市の施策に活かしていきたい。一方、児童センターによっては施設が狭隘な所もあり、課題になっているため、そのあたりも考慮しながらどこまで利用を広げていけるか検討していきたい。指標については、今後、機会を捉え、いただいたご意見も踏まえて見直しを検討したい。

(我妻委員)

資料 4 No.48「防災ラジオ配布台数(台)【累計】」について、防災ラジオの有償配布を廃止した理由および今後どのような防災情報の伝達方法を考えているのか教えていただきたい。

(事務局)

近年、スマートフォンの所有割合が増え、エリアメール等で必要な情報を幅広く手に入られる環境が整ってきたことから、エリアメールや SNS、その他様々な手段で情報発信を進めていくとして防災ラジオの有償配布を終了した。情報発信は災害時の最重要課題と捉えている。情報発信の手段は今後どんどん進化していくため、世の中のトレンドに合わせ、最も効果的な情報発信の方法を考えていきたい。

③新しい地方経済・生活環境創生交付金の効果検証について

【資料 5】～【資料 8】を用いて事務局より説明した。

- ・【資料 5】なとりスーパーキッズ育成プロジェクトについて
- ・【資料 6】名取市地域 DX 推進事業について
- ・【資料 7】台湾における観光・産業交流促進事業について
- ・【資料 8】名取市 未来へつなぐ 山のみち整備事業について

【質疑応答等】

(能瀬委員)

【資料 7】「台湾における観光・産業交流促進事業」について、KPI①「本事業に係るインバウンド消費金額（一般客 1 人あたりの旅行支出）」はどのように確認したのか。

(商工観光課)

まず始めに数字の訂正をさせていただきたい。KPI①の実績値は「160,850」である。

内訳としては、令和 8 年 3 月に実施したモニターツアーにお越しいただいた皆様の宿泊、移動、食事、体験、お土産代などとなっている。

(能瀬委員)

ヒアリングをして金額を確認したのか。

(商工観光課)

旅行会社に一括で依頼していたため、旅行会社から内訳を確認している。

(管野委員)

【資料 5】「なとりスーパーキッズ育成プロジェクト」について、陸上競技も過去に募集していたかと思うが、現在はスケートボード競技に特化しているのか。また、今後、他競技への展開は検討しているか。

(なとりの魅力創生課)

当初はスケートボード競技と自転車競技に取り組むこととしていたが、現在、自転車競技は募集を断念している。今のところ、他競技への展開は検討していない。

(我妻委員)

【資料 8】「名取市 未来へつなぐ 山のみち整備事業」について、名取市にはみちのく潮風トレイルもあるが、関連性はあるのか。

(商工観光課)

みちのく潮風トレイルは長期間かけて長距離を歩くのに対し、オルレは半日～1日の短期間でみちのく潮風トレイルに比べて短距離を歩くという特徴がある。みちのく潮風トレイルを歩くお客様が本市に来た際に、半日、山側のオルレを歩くという繋がりを持たせることを事業の目的の1つとしている。オルレコースの開発にはみちのくトレイルクラブに全面協力いただいております、今後も連携して相互のトレッキングコースを楽しんでもらえるような取組を進めていきたい。

(赤坂委員長)

資料7「台湾における観光・産業交流促進事業」について、アンケート調査や各種調査を行ったとのことだが、その結果をどのように受け止めているか。

(商工観光課)

名取市の特産品についてアンケート調査したものもあるため、結果は今後の商品開発に活用したい。また、台湾の方は「食」を目的に旅行する方や「体験」に魅力を感じる方が多いことがわかったため、食や体験コンテンツを重視し、今後の事業に活かしていきたい。

(齋藤副委員長)

資料8「名取市 未来へつなぐ 山のみち整備事業」について、コース設計にあたり、地域の自治会や町内会等と連携しているか。

(商工観光課)

現在、意見交換会においてコースの検討を行っているところである。意見交換会には町内会長にもご出席いただき、ご意見を賜っている。

(4) そ の 他

本日の議事録については後日郵送することを報告した。

(5) 閉 会

以上